

北翔大学／北翔大学短期大学部 実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		北翔大学		設置者名	学校法人 浅井学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成20年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
人間福祉学部	地域福祉学科	80人	中一種免(家庭)	平成10年度	81人	3人	2人	1人
			高一種免(家庭)	平成10年度			2人	
			高一種免(福祉)	平成13年度			3人	
	福祉心理学科	80人	養教一種免	平成13年度	97人	30人	30人	8人
生涯学習システム学部	芸術メディア学科	80人	中一種免(美術)	平成12年度	91人	12人	1人	0人
			中一種免(音楽)	平成12年度			10人	
			高一種免(美術)	平成12年度			1人	
			高一種免(音楽)	平成12年度			11人	
			高一種免(工芸)	平成12年度			0人	
			高一種免(情報)	平成13年度			4人	
	学習コーチング学科	80人	幼一種免	平成18年度	26人	25人	21人	19人
小一種免	平成18年度	26人						
特支一種免(知・肢・病)	平成19年度	23人						
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	160人	中一種免(保健体育)	平成21年度	/	/	/	/
			高一種免(保健体育)	平成21年度				
入学定員合計		480人	合計		295人	70人	134人	28人

大学名		北翔大学(大学院)		設置者名	学校法人 浅井学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成20年度)			
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
人間福祉学研究科	人間福祉学専攻	4人	中専免(家庭)	平成13年度	5人	1人	1人	0人
			高専免(家庭)	平成13年度			1人	
			高専免(福祉)	平成17年度			0人	
生涯学習学研究科	生涯学習学専攻	6人	幼専免	平成19年度	5人	3人	0人	0人
			小専免	平成19年度			0人	
			中専免(保健体育)	平成16年度			3人	
			中専免(保健)	平成16年度			2人	
			中専免(家庭)	平成19年度			0人	
			中専免(美術)	平成16年度			0人	
			中専免(音楽)	平成16年度			0人	
			高専免(保健体育)	平成16年度			3人	
			高専免(保健)	平成16年度			2人	
			高専免(家庭)	平成19年度			0人	
			高専免(美術)	平成16年度			0人	
			高専免(音楽)	平成16年度			0人	
			高専免(工芸)	平成16年度			0人	
			高専免(情報)	平成16年度			0人	
			特支専免(知・肢・病)	平成19年度			1人	
入学定員合計		10人	合計		10人	4人	13人	0人

大学名	北翔大学短期大学部			設置者名	学校法人 浅井学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成20年度)			
	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
	人間総合学科	150人	中二種免(保健体育)	平成15年度	128人	12人	12人	0人
	こども学科	140人	幼二種免	平成17年度	143人	142人	142人	50人
			小二種免	平成17年度			95人	
入学定員合計		290人	合計		271人	154人	249人	50人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成21年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成21年5月14日（木）
実地視察大学：北翔大学・北翔大学短期大学部
実地視察委員：高岡信也委員、山極隆委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

（大学）

・ 3学部5学科で教員養成を行っている。

（短期大学部）

・ 2学科で教員養成を行っている。

（大学・短期大学共通）

・ 教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。

<講評>

（大学・短期大学部共通）

・ 教員養成に対する真摯な態度が見られた。今後は教員や事務職員に対して、FDやSDを取り入れ、教育成果に対しての責任も持って欲しい。

・ 特別支援教育担当教員の充実を図るなど、幼稚園・小学校教諭免許状・特別支援学校の三つの教諭免許状を併有する教員の養成を目指しているカリキュラムを、より一層充実させて欲しい。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

（大学・短期大学部共通）

・ 大学全体として、「愛と和と英知」を教育理念のもと、文化の向上、社会の福祉及び地域の発展に寄与することを目的としており、福祉と生涯学習の分野で生活の質の向上に資する優れた職業人たる人材の育成に努めている。福祉と生涯学習の分野で生活の質の向上を目指す上では、学校教育における家庭、福祉、芸術及び保健体育の果たす役割が重要であると考え、それぞれの専門分野において、「教職に対する強い情熱をもち、意欲的に学ぶ姿勢」「教育の専門家としての確かな力量」「豊かな人間性や社会性、自ら判断し行動できる力」をもった教員の養成を目指した教職課程のカリキュラムを考えている。

・ 大学が考える教師像は、具体的には、「児童・生徒と人間的にふれあい、保護者や地域社会と手をつなぐ教師」（ふれあう教師）・「自ら研鑽に励み、自己を高め、今日的教育課題に対応できる教師」（学び続ける教師）、「豊かな個性をもち得意分野を活かして実践し、同僚と協力・連携できる教師」（個性豊かな教師）である。

<講評>

（大学・短期大学部共通）

・ 教員養成の理念やカリキュラムなどに対する教育成果も重要であるため、具体的な明確到達を個々の授業科目に設けるなどして欲しい。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<状況>

（大学）

- ・ 幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭の3つの教諭の連結を目的とした「学習コーチング学科」を開設している。
- ・ 教員によって、成績評価の基準が異なっている。
- ・ 法令上定められている含めることが必要な事項が、授業科目によっては明確に示されていないシラバスが見られる。

（短期大学部）

- ・ 各教科の指導法科目の開設時期が、教科によって異なっている。
- ・ 法令上定められている含めることが必要な事項が、授業科目によっては明確に示されていないシラバスが見られる。

<講評>

（大学・短期大学部共通）

- ・ 教職の授業科目として、授業に出席するのは当然のことであるため、出席のみで加点するような評価方法は見直すこと。
- ・ 法令で定める事項が各授業科目に含められているかどうかも含めて、授業科目内容を全体的に確認すること。
- ・ 学生が到達目標を達成しているかどうかを確認すること。
- ・ 授業科目「教育方法論（含情報機器・教材活用）」について、教材活用に関する内容の充実を図ること。

（短期大学部）

- ・ 各教科の指導法科目の履修時期について、見直すこと。
- ・ 授業科目「教育経営学（含教育課程）」について、教育課程に関する内容の充実を図ること。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

（大学・短期大学部共通）

- ・ 実習校については、協力校、近隣の各教育委員会、北海道私立幼稚園協会等に実習の依頼を行い確保している。
- ・ 教育実習の受講資格として、大学が定めた授業科目を、実習開始の前年度までに履修済みであること及び個々の学生の資質能力が実習に参加するに値すると大学として確認できることが要件となっている。

<講評>

（大学・短期大学部共通）

- ・ 全学校種の教育実習について、母校実習はなるべく避けること（特に中学校・高等学校教諭免許状取得のための教育実習）。
- （短期大学部）
- ・ 教育実習の受講資格について、実習に参加させるに必要な資質能力が備わっているか十分に精査すること。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

(大学)

- ・小・中・特別支援学校で開催させる研究会への参加及び公開授業の参観を行っている。
- ・歯科保健活動への参加を行っている。
- ・教育実習前に、学校現場体験として、週1回の割合でスクールアシスタントティーチャーを学生に経験させている。また、春休みには、市教育委員会と連携し、小学校体験も実施している。
- ・小規模中学校・高等学校と連携し、授業参観、模擬授業、部活動指導への参加を行っている。
- ・近隣の高等学校に出向き授業参観及び部活動の支援等の体験実習を実施している。
- ・ボランティア活動として
 - ①水泳学習ボランティア・キャンプ学習ボランティア・スキー学習ボランティア・健康診断ボランティア
 - ②特別支援学校での運動会等行事や授業ボランティアの支援活動
 - ③市教育委員会主催「アタック、キャンプ」への参加
 - ④近隣の市町村の小中学校での学習ボランティア
 - ⑤楽器の取り扱い方や基本奏法についての指導活動
 - ⑥小規模小学校を対象にした一週間の「通学合宿」についての指導活動を行っている。
- ・「日本リサイクルえべつ」とともに、江別市・札幌市の小学校で環境問題関連の授業を提供している。

(短期大学部)

- ・近隣の小・中学校に出向き授業参観及び部活動の支援等の体験実習を実施している。
- ・ボランティア活動として
 - ①幼稚園での運動会、お楽しみ会、節分行事等への参加
 - ②教育実習を行った小学校での運動会ボランティア
 - ③小学校での授業補助ボランティアを行っている。

<講評>

(大学・短期大学部共通)

- ・ボランティア活動やアシスタントティーチャーなどは、単位化への検討を行って欲しい。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

(大学・短期大学部共通)

- ・教職センター（全学共通組織）と連携を取りながら、各学科ごとに成績表の確認や指導を行っている。
- ・教育支援総合センターに「何でも相談室」を開設し、学生をサポートする体制を整えている。
- ・指導教員を中心として、教職課程を履修するにあたっての相談を受け付けている。

<講評>

(大学・短期大学部共通)

- ・学生との相談業務を教職センターの役割として位置づけたことは評価できる。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

(大学・短期大学部共通)

- ・教職課程の運営の組織として、「教職課程委員会」が、課程編成、教員編成及び実習教育指導を含む教職指導を行ってきた。
- ・平成19年度からは、学校教育現場や教育行政において経験を有している教員及び教職課程を担当する各学科の教員を構成員とした「教員養成カリキュラム委員会」を創設し、大学全体の教職課程の理念やカリキュラムの検討を行ってきた。
- ・平成21年度からは、教職課程におけるすべての業務を一括して取りまとめ、教職を目指す学生に対して一貫した指導ができる体制を構築するため、「教職センター」を創設した。

<講評>

(大学・短期大学部共通)

- ・教職センターの組織作りを行ったことは評価できる。
- ・教職センター専任の教員を確保し、教育実習の管理センターの役目ではなく、教職課程全体を統括して欲しい。ただし、教職センターのみに任せすぎないように、留意すること。
- ・教職センターを中心として、全学的に体系付けられた教員養成のカリキュラムを作成すること。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<状況>

(大学・短期大学部共通)

- ・教職に関連する全般的な図書等の冊数は、155,278冊となっている。
- ・コンピュータ等は、257台備えられている
- ・体育関連施設として、体育館の他、多目的体育室（2室）、アスレティックトレーナー演習室（1室）、トレーニング室（2室）、体育室（3室）、プール、陸上グラウンド、テニスコート、野球場、多目的グラウンドがある。

<講評>

(大学・短期大学部共通)

- ・図書館における、図書等の纏め方は評価できる。
- ・より最新の教育事情が分かるような図書等の充実を図って欲しい。
- ・体育関連施設が十分に備えられており、評価できる